

第 126 号

2020.5 発行

総研大 NEWSLETTER

トピックス

- ◆ 令和元年度 3 月学位記授与
- ◆ 第 4 回 SOKENDAI 賞の表彰
- ◆ 令和 2 年度春季新入生入学
- ◆ 高エネルギー加速器研究機構
実用日本語会話コース（中級クラス）
初開講
- ◆ 高エネルギー加速器研究機構
アカハラ講演会
- ◆ 日本文学研究専攻
令和元年度第 2 回特別講義開催

受賞情報

プレスリリース情報

メディア等出演・掲載情報

イベント情報



令和元年度春季学位記授与 学長メッセージ



S O K E N D A I



3月

令和元年度 3月 学位記授与

3月24日(火)に葉山キャンパスにて予定されておりました2020年春季学位記授与式は、COVID-19の感染拡大の影響をうけ、中止となりました。代わりに、一部専攻において、コロナウイルス感染防止に十分注意した上で、授与式が行われました。

【広報社会連携係】

■令和元年度春季学位記授与 学長メッセージ
[令和2年3月24日]
「CUDOsとPLACE：学者の集団はどんな行動原理で動いているのか？」

<https://www.soken.ac.jp/news/6549/>



(各専攻での学位記授与の様子)



地域・比較文化学専攻



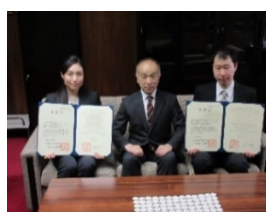
核融合科学専攻



天文科学専攻



宇宙科学専攻



生理科学専攻



遺伝学専攻



基礎生物学専攻



3/25

第4回 SOKENDAI 賞

第4回 SOKENDAI 賞が、次の2名に授与されました。令和2年3月25日(水)に授与式が行われ、学長から賞状と記念品が贈呈されました。

SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として平成30年度に創設されました。【広報社会連携係】



左：松野允郁さん、中央：長谷川学長、右：小嶋涼太さん

第4回 SOKENDAI 受賞者

| 氏名 | 所属(申請時) | 学位論文題目 |
|-------|----------------------------|--|
| 松野 允郁 | 物理科学研究科 天文科学専攻 | High-Precision Abundance Study for the Milky Way Halo Stars with Kinematics and Asteroseismology |
| 小嶋 涼太 | 高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 | Triangulation of the Amplituhedron from Sign Flips |



4月

令和2年度春季 新入生の入学

令和2年度春季入学式は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により中止となりました。各専攻での状況に応じて、コロナウイルス感染防止に十分注意した上で、入学者ガイダンスや入学式等実施されました。【広報社会連携係】

■令和2年度春季入学 学長メッセージ
[令和2年4月7日]
「総研大で博士論文研究をするとはどういうことか」
<https://www.soken.ac.jp/news/6551/>



遺伝学専攻



核融合科学専攻



12/4~
3/2

高エネルギー加速器科学研究科 実用日本語会話コース（中級クラス）初開講

留学生にとって日本語が必要とされる場面は、研究ではほとんどなく、日常生活でもけっこう多くはありません。しかし、多くの留学生が日本語を学んでコミュニケーションの向上に努めようと躍起になっています。近隣の大学の日本語講座や自費で語学学校に通う者もいます。



高エネルギー加速器科学研究科では、学生との定期面談で留学生から日本語コース充実の希望が寄せられ、専攻運営費などで実施している入門コースに加えて、中級コース実施を新たに申請し、今年度採択されました。実施にあたって入門コースが令和元年12月4日から令和2年3月18日まで週1回（水曜日：9時～12時）10回開講され、中級コースが令和元年12月2日から令和2年3月2日まで、週1回（月曜日：14時～17時）合計10回開講されました。いずれも最後の授業では留学生による発表会が行われましたが、ここでは中級コースの発表会についてご紹介します。

ベトナムやタイの料理の辛い調味料やピザの話、自分を「三郎」と呼んでゴールデン街が大好きなイ

インド人男性、小津安二郎などの古い日本映画にディープにはまった中国人、大河ドラマの主人公には敗れた英雄が多いことに気づいて感銘を受け、日本文化を考えている留学生等々、習いたての日本語を駆使しながらも聞かせる話ばかりで、大いに楽しめた1時間でした。

留学生たちは日本語を学ぶという共通の目的のために集まりましたが、研究科内の異なる分野の留学生同士の横の繋がりもできました。このことは、孤

立しがちな留学生のメンタルヘルス面でもプラスとなりました。

最近日本で就職を希望する留学生が出てきており、就職には中・上級レベルの日本語能力を求められる実態が明らかになっています。就職支援策の一環としても中・上級者向けの実用日本語会話コースの開講を継続したいと考えています。

【高エネルギー加速器科学研究科】



高エネルギー加速器科学研究科 アカハラ講演会

2月7日（金）、高エネルギー加速器研究機構（KEK）で、「アカデミック・ハラスメントに関する講演会」が開催されました。総研大の学生の指導教員だけでなく、理事や人事担当者など参加者は50人を超え、実例をもとにした講演に時折うなずくしぐさを見せるなど、熱心に耳を傾けておりました。

講師を務めていただいたのは、長年キャンパス・ハラスメント対策の第一人者としてご活躍されている東北大学名誉教授の吉武清實先生です。吉武先生には、豊富なお経験をもとにわかりやすく、どのような行為がアカハラに該当するのか、アカハラ事案が発生した場合いかに関係者の心理的、時間的労力がかかるかなどを伝えていただきました。

また吉武先生は、昔通用した指導は現代には通用しないおそれがあることや、学生との適切な距離感を保った関係を築



くことの重要性などを強調され、「アカハラに限らずハラスメントは誰も得しない」と訴えました。

この催しは、近年、大学教員と学生間でのアカデミック・ハラスメントの申し立て件数が急速に増えていることを背景に開催されました。今まで普通に行ってきた指導や接し方が実はアカハラの可能性があり、訴えられるリスクがあるということに参加者の皆様に知っていただく良い機会になりました。

【高エネルギー加速器科学研究科】



日本文学研究専攻 令和元年度第2回特別講義を開催

2020年3月26日（木）、国文学研究資料館にて令和元年度2回目の特別講義を開催しました。当専攻の恋田知子准教授と谷川恵一教授が講師を務めました。

恋田准教授は「17世紀の物語絵の諸相—『大織冠』を例として—」をテーマに、大海原を舞台に藤原鎌足と竜王の宝珠をめぐる争奪戦を描いた幸若舞曲『大織冠』の古活字本、整版本、奈良絵本、絵巻、屏風絵などを書写年代を追って紹介し、挿絵数

や挿絵の特徴を解説。参加者は国内外の貴重な古典籍の画像に見入りながら、興味深そうに耳を傾けていました。

一方、「<私>の言説戦略—アイロニーの日本近代—」をテーマ

に講義を行った谷川教授は、3月末に定年退職を迎え、



恋田知子准教授

今回は最終講義となりました。文体の変容から言葉や事柄がどのように生まれ、増加していくのかを分析するこれまでの研究の一端を紹介しながら、その中でも内面と外側が乖離した様相「アイロニー」に焦点を当て、



谷川恵一教授

日本近代の文学者たちがどのようにアイロニーを理解していたかを考察。テキストの緻密な分析に基づく発表に、会場からは、近代文学における内面表現について各自の研究対象に引き寄せて掘り下げた質問が数多く寄せられました。講義を終えた恋田准教授と谷川教授には、教員や学生から花束が贈られ、会場は大きな拍手で包まれました。

この特別講義は当専攻が学生の専門性を高めると同時に、広く深く教養と知識を身につけ先進的な日本文学研究を行う優秀な人材を育てていくことを目的として、日常の授業では触れられない角度からテーマを設定して毎年開催しています。

今回の開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、不特定多数の方との接触を避けるため、一般の方の参加はご遠慮いただき、関係者のみの開催といたしました。ご理解、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

【日本文学研究専攻】

Awards

■日本学士院賞に2名受賞

日本学士院は、令和2年4月6日、優れた研究者に贈る日本学士院賞9件9名を決定し、本学基盤機関より以下2名が受賞いたしました。

[URL] <https://www.japan-acad.go.jp/japanese/news/2020/040601.html#007>



| 受賞者氏名 | 所属・役職 | 受賞の対象となった研究業績 |
|-------|----------------------------|---|
| 川合 眞紀 | 自然科学研究機構 分子科学研究所 所長 | 単一分子分光を用いた固体表面上での化学反応の研究 https://www.ims.ac.jp/news/2020/04/20_4652.html |
| 喜連川 優 | 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長 | 大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究 |

■構造分子科学専攻 山本 浩史 教授 永井科学技術財団賞（学術賞）受賞

協奏分子システム研究センターの山本浩史教授が「有機伝導体のナノ薄膜化とエレクトロニクス素材への展開」の業績で永井科学技術財団賞（学術賞）を受賞されました。本賞は、素形材分野で顕著な成果を挙げ、更なる研究業績を期待できる研究テーマの研究者に対して永井科学技術財団より授与されます。

[URL] https://www.ims.ac.jp/news/2020/03/06_4603.html



■令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に3名受賞

文部科学省は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を取めた者を「科学技術分野の文部科学大臣表彰」として顕彰してきており、この度、令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者を決定し、構造分子科学専攻から2名が受賞した。



[URL] https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00187.html

| 受賞者氏名 | 所属・役職 | 表彰内容 | 受賞の対象となった研究業績 |
|-------|------------------|-----------------|---|
| 岡本 裕巳 | 構造分子科学 専攻 教授 | 科学技術賞 (研究部門) | ナノ光学新観測手法の開発とプラズモンの空間特性の研究 https://www.ims.ac.jp/news/2020/04/07_4637.html |
| 倉持 光 | 構造分子科学 専攻 准教授 | 若手科学者賞 | 有機伝導体のナノ薄膜化とエレクトロニクス素材への展開 https://www.ims.ac.jp/news/2020/04/08_4639.html |
| 仲田 資季 | 核融合科学専攻 准教授 | 若手科学者賞 | 超高温プラズマにおける乱流抑制機構の解明と閉じ込め改善の研究 https://www.nifs.ac.jp/press/200417_04.html 【受賞コメント】 多くの共同研究者からの支援のおかげで受賞につながったこと、感謝しております。今後もプラズマ物理・核融合研究分野の重要課題であるプラズマ乱流現象の全容解明を目指して研究を発展させていきたいと思っております。 |

■高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 加速器研究施設 増澤美佳 教授 2019年度第7回湯浅年子賞(お茶の水女子大学賞)受賞

物理学とその関連領域において顕著な業績を上げた女性に贈られる「湯浅年子賞」の金賞を KEK の増澤美佳・加速器研究施設教授が「素粒子物理学高エネルギー加速器実現のための電磁石システムに関する先導的技術の確立」にて受賞し、2月12日にお茶の水女子大学で授賞式が行われました。



[URL] <https://www.kek.jp/ja/newsroom/2020/02/20/1410/>

■核融合科学専攻 小川国大 准教授 Outstanding Reviewer for Nuclear Fusion for 2019

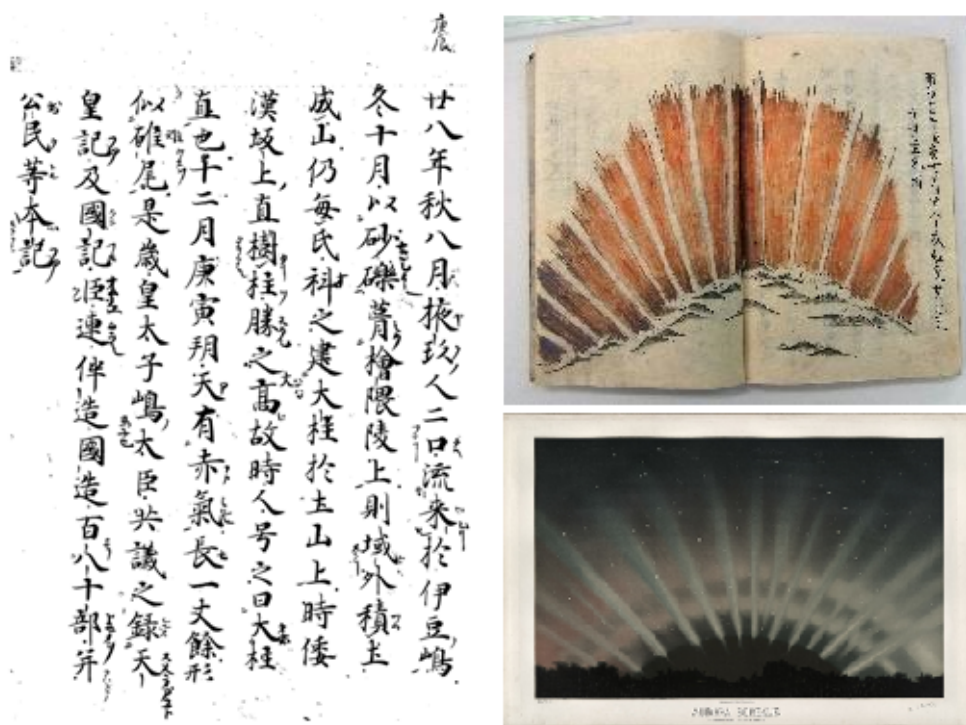
核融合科学研究所の小川国大准教授が、このたび、“Outstanding Reviewer for Nuclear Fusion for 2019”を受賞されました。2019年における核融合研究の論文誌「Nuclear Fusion」で、特に優秀な査読を行った研究者として、今回表彰されたものです。



[URL] <https://publishingsupport.iopscience.iop.org/questions/nuclear-fusion-2019-reviewer-awards/>

Press Release

2020.3.13 日本最古の天文記録は『日本書紀』に記された扇形オーロラだった



左：1770年9月に京都から見たオーロラを描いた絵図。松阪市所蔵の古典籍『星解』より。三重県松阪市提供。
右：1872年3月1日9時25分という説明が書かれているトルヴェロの絵画。

【研究概要】

『日本書紀』編纂1300年にあたる本年、国立極地研究所（所長：中村(なかむら)卓司(たくじ)）の片岡龍峰准教授と、国文学研究資料館（館長：ロバート キャンベル）の山本和明教授を中心とする研究グループは、日本最古の天文記録として知られる『日本書紀』推古二十八年（620年）のくだりに記された「赤気」について、近年の古典籍を用いたオーロラ研究で解明されてきた「扇形オーロラ」と整合的であることを明らかにしました。

着目したのは「形似雉尾」という表現です。緯度の低い地域で見られる扇形のオーロラを目撃した当時の日本人は、雉がディスプレイ行動や母衣打ちで見せる扇形の尾羽でオーロラを例えたのだろう、という解釈を新たに提唱しました。倭の人々の感性をうかがい知ることに加え、多くの初期の写本に「似雉尾」と書いてあるのは「似雉尾」が誤写されたものであろう、とする明治の研究者・飯田武郷による先行研究を裏付ける、文理融合による研究成果でもあります。

【論文情報】

掲載誌： 総研大文化科学研究 第16号（2020）

タイトル： 雉尾攷—日本書紀にみる赤気に関する一考察

【著者】

片岡龍峰（国立極地研究所 宙空圏研究グループ 准教授
／総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 准教授）
山本和明（国文学研究資料館 研究部 教授
／総合研究大学院大学 文化科学研究科 日本文学研究専攻 教授）
藤原康德（総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻）
塩見こずえ（国立極地研究所 生物圏研究グループ 助教
／総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 助教）
國分互彦（国立極地研究所 生物圏研究グループ 助教
／総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 助教）

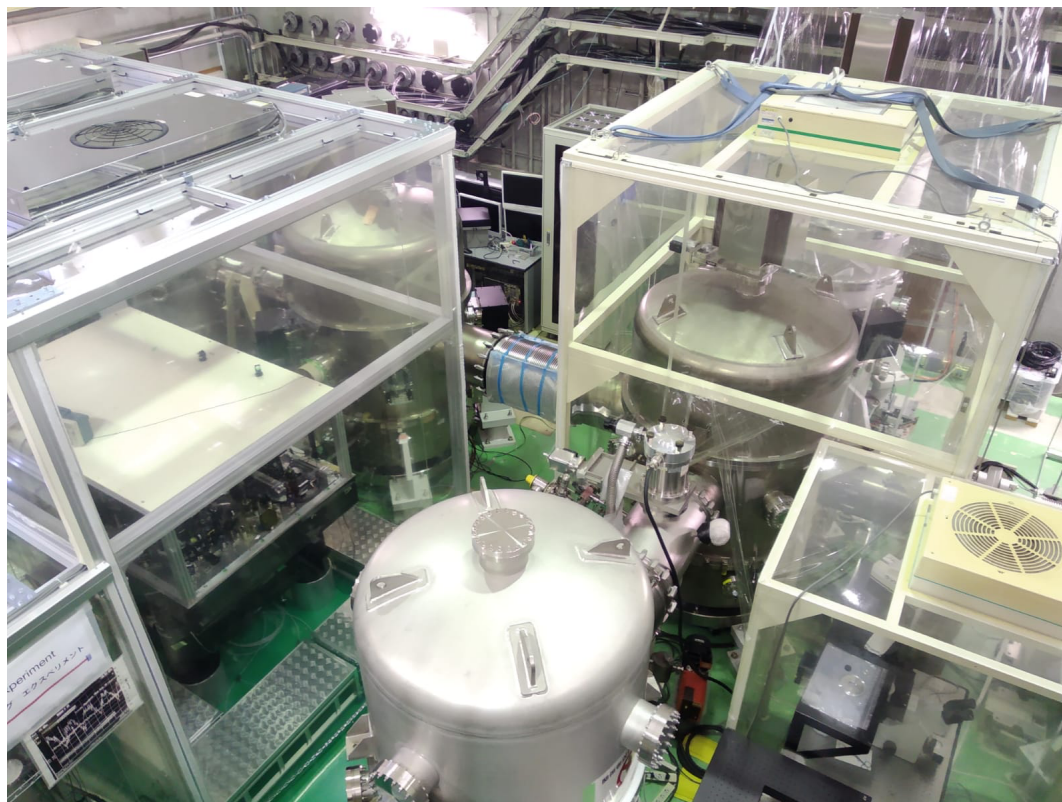
【詳細はこちら（本学ウェブサイト）】 <https://www.soken.ac.jp/news/6524/>



2020.4.28 TAMA300 で実証した量子雑音を抑える新技術

【研究概要】

重力波望遠鏡の感度を上げる新たな技術が世界で初めて開発され、その実証に成功しました。この開発と実証には、国立天文台三鷹にある重力波検出器 TAMA300 が用いられました。今後この技術を、大型低温重力波望遠鏡 KAGRA をはじめ現在運用中の重力波望遠鏡に適用することで、数多くの重力波現象が捉えられると期待できます。



TAMA300 を改造して構築したフィルター共振器の心臓部（クレジット：国立天文台）

【論文情報】

- ・論文タイトル： Frequency-Dependent Squeezed Vacuum Source for Broadband Quantum Noise Reduction in Advanced Gravitational-Wave Detectors
- ・掲載誌： Physical Review Letters
- ・DOI： 10.1103/PhysRevLett.124.171101

【本学の教員・学生】

- ・学生： Yuhang Zhao, 物理科学研究科天文科学専攻
- ・教員： Matteo Leonardi, 物理科学研究科天文科学専攻 助教
麻生 洋一 Yoichi Aso, 物理科学研究科天文科学専攻 准教授
高橋 竜太郎 Ryutaro Takahashi, 物理科学研究科天文科学専攻 助教
Raffaele Flaminio, 物理科学研究科天文科学専攻 教授

【詳細はこちら】 <https://journals.aps.org/prl/abstract/10.1103/PhysRevLett.124.171101>



Media

東海新報

- 【記事タイトル】 はしご虎舞 密着研究
- 【掲載】 日本歴史研究専攻（院生） 牧野由佳
- 【日時】 東海新報 2019年11月2日（土）

読売新聞 毎日新聞 愛媛新聞 他

- 【記事タイトル】 「ガラン版 千一夜物語」
- 【掲載】 地域文化学専攻 西尾 哲夫 教授
- 【日時】 読売新聞 毎日新聞 愛媛新聞 他 2019年12月3日（土）、14日
- 【URL】 <https://www.yomiuri.co.jp/culture/20191202-OYT8T50159/>
<https://mainichi.jp/articles/20191214/ddm/014/040/019000c>

サイゾー 2月号

- 【記事タイトル】 「「超・人間学」"殴り合い"はなぜ人間的なのか（前編）
- 【掲載】 地域文化学専攻 樫永 真佐夫 教授
- 【日時】 サイゾー 2月号 2020年2月1日（土）
- 【URL】 https://www.premiumcyzo.com/modules/member/2020/01/post_9684/

サイゾー 3月号

- 【記事タイトル】 「「超・人間学」"殴り合い"はなぜ人間的なのか（後編）
- 【掲載】 地域文化学専攻 樫永 真佐夫 教授
- 【日時】 サイゾー 3月号 2020年3月1日（日）
- 【URL】 https://www.premiumcyzo.com/modules/member/2020/02/post_9722/

都政新聞 (NEWS TOKYO) 第 147 号

【記事タイトル】 意志をもって総研大に来た学生をもっともっと応援したい。

【掲載】 総合研究大学院大学 長谷川 真理子 学長

【日時】 都政新聞 (NEWS TOKYO) 2020 年 3 月 20 日 (金)

【URL】 <http://www.newstokyo.jp/index.php?id=1285>

日刊工業新聞

【記事タイトル】 総研大、博士学生を支援～22 年度めど 特別研究員で雇用

【日時】 日刊工業新聞 2020 年 4 月 2 日 (木)

【URL】 <https://newswitch.jp/p/21744>

YAHOO ニュース

【出演番組】 人類史で見ると、人の密集した都市文明が「異常」——研究者が語る、新型コロナとの対峙

【掲載】 総合研究大学院大学 長谷川 真理子 学長

【日時】 2020 年 5 月 3 日(日)

【URL】 <https://news.yahoo.co.jp/feature/1678>

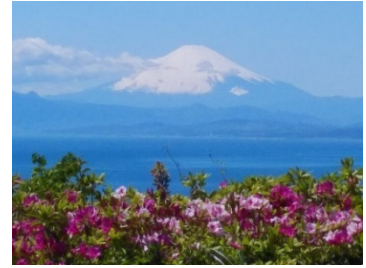
Event Calendar

| 日程 | 時間 | イベント名称 (リンク) | 実施専攻・基盤機関 |
|--------------------|-------------|------------------------------------|-----------|
| 2020/5/9 | 10:00～17:00 | "生命科学研究科 基礎生物学専攻 大学院説明会 (オンラインで実施) | 基礎生物学研究所 |
| 2020/6/6 | 10:00～ | 大学院説明会・オープンキャンパス 2020 (オンラインで実施) | 分子科学研究所 |
| 2020/6/19 | 10:00～17:00 | 2020 年度大学院入試説明会 | 核融合科学専攻 |
| 2020/8/24～ 8/28 | — | 2020 年度 第 17 回 夏の体験入学 | 核融合科学専攻 |

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

■ 編集後記

今年1月に発覚した新型コロナウイルス感染症が世界的な大流行となり、4月7日には「緊急事態宣言」が発令されました。本学においても、時差出勤、在宅勤務といった対応が行われております。緊急事態期間が延長されるなど先行きに不安を感じる中、久しぶりに葉山キャンパスに向かうと、五月晴れの空の下清々しい富士山と、満開のツツジが迎えてくれました。一日も早く、何の心配も無くこのような景色を楽しめる日が来ることを切に願うばかりです。（広報社会連携係 T.S）



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2020年5月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学
総合企画課広報社会連携係
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2020 SOKENDAI